

令和6年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	4	学校名	伊豆伊東高等学校（全日制）	記載者	小川 友和
------	---	-----	---------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	確かな学力の定着とともに生徒個々の特性に応じた学力の向上	秋実施の到達度テストの再実施で学習到達度が上昇した生徒95%以上【1、2年生共】	C	C	
		1日の平均家庭学習時間が最低1時間以上の生徒割合が各学年80%以上【共】	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生になるにしたいが、学習時間を伸ばしていけるように習慣づけたい。 ・数値では上昇が見られるので、「レベルアップを図ろう！」という呼びかけとともに1.5時間以上の学習時間を提示する。 ・現1、2年生が新2、3年生になった時に、前年よりも向上していればよい。 ・学年があがるにつれて勉強時間が少なくなっている原因が気になる。受験せずに大学入学できる時代で余裕があるのか。 ・2・3月入試ではない3年生にも1時間程度の学習ができるプランを立てる。
		「授業がわかる」回答生徒割合80%以上【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかる」状態の検証が必要か。例えば、模試・共通テストの自己採点による全体の定着度を指標にしてはどうか。 ・点数に現れない教科ごとの関心の高まりも評価項目として設定し、学ぶ意欲を確認してもよい。
	学科、類型ごとの特色化	受検実績が1人1回以上【普】 卒業時検定取得2種目以上【商】 放課後等検定補習実施【商】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も意欲的に取り組んでほしい。 ・個に応じた検定への指導が行われている。
		朝読書の時間設定【共】 一人年3冊以上の読書【共】 図書館を利用した授業や講座を校内全体で月3回以上実施【共】	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化の波の中、読書の有用性や書物に触れる機会を増やす取組は難しいが、是非今後も継続してほしい。 ・次年度はもう少し図書館の利用を増やし、A評価にできるよう努力を望む。 ・昨年度より向上した事を踏まえ、年3冊以上→年5冊以上等のレベルアップを図りたい。 ・スマホ・タブレットを使用することが多い中、60%以上の生徒が3冊以上の読書ができるようになったのは、今後に期待できるのではないかと思う。 ・今後も期待する。

様式第5号

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ア		1月進研模試(国数英)で平均GTZがB1以上(1・2年生)、共通テストと2年2月マーク模試の得点比が2割増の生徒が80%以上(3年生) 【普・P/特進】 「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上【普・P/特進】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの結果は素晴らしいと思う。 「学習意欲が上がった」について、具体的にどの教科のどんな授業で関心が高まったのかを生徒に記述してもらおうと、授業改善に参考になると思われる。
		「自分の好きなことや強みを理解して、進路を考えている」回答生徒割合80%以上 【普・C/総キャリ/進学】 「教師が生徒の進路に応じた声掛けをしてくれる」回答生徒割合80%以上 「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上【普・C/総キャリ/進学】	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の好奇心やキャラクター、能力と進路のマッチングを先生方が熱心にやってくれていると感じた。 個別面談等を活用したアプローチが丁寧に行われていることは素晴らしいと思う。 進学先を確認すると様々な選択がされていることから、しっかりとフォローしているのだろう。大学進学に関しては、統合再編によってどのようなメリット・デメリットがあったのかが気になる。 声掛けの割合が高い事を評価したい。きっかけを作ってあげるのが大人の役目だと思う。
		「アートコース(類型)に設置された専門の授業により、アートの専門性が身についた」回答生徒割合80%以上 【普・アート】 全国レベルの大会やコンクール出場2件以上【普・アート】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 新聞等により、アートコース(類型)での授業により、素晴らしい実績を上げている事が分かる。
		「スポーツ健康類型に設置された専門の授業により、スポーツ健康に関する専門性が身についた」回答生徒割合80%以上【普・ス健】 来年度新たに開講する科目のシラバス、指導案の作成、授業内容の検討【普・ス健】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育科の教員が、部活動も含めて、常に生徒に寄り添って活動しているように感じている。
		「商業科目の授業により、ビジネスに関する専門性が身についた」回答生徒割合80%以上【商】 全国レベルの大会出場2件以上【商】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> よく頑張ったと思う。 色々な外部イベントに積極的に参加し、県下に名を馳せているように感ずる。一方、アポ取り後の継続活動が不足との声も聞いている。 コンクールや大会の出場は視野が広がるチャンスなので、今後も積極的に出場してほしい。

様式第5号

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
イ	心身ともに健康的 で他者を 思いやる 生活 特別支援 学校との 交流等の 積極的展 開	「服装を正し、礼儀やマナー をわきまえて行動している」 回答生徒割合90%以上【共】 「地域や近所の人と会うと あいさつをしている」回答生 徒割合80%以上【共】 昇降口指導の実施【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・服装、礼儀、マナー及び地域・近所での 行動については、第三者的な視点でも評 価できるとよい（手法は難しいが）。 ・昨年度同様、気持ちの良い挨拶ができる 生徒が多い。温かな声かけで、逸脱する 生徒を指導してほしい。
		保健だより年12回発行【共】 薬物講座等年2回実施【共】 A E D講習等への生徒参加 【共】 朝食摂取率90%以上【共】 年間欠席日数10日以内、遅刻 早退については年間合計日 数10回以内の生徒の割合 90%以上【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタル的なサポートも導入できればさ らに良いと思う。 ・学校全体としての欠席率が減少している こと事は評価できる。欠席がちな生徒へ の個別の関わりを大切にしてほしい。
		学校生活サポートシート等 を活用した「生徒情報交換 会」学期1回【共】 巡回通級等において、配慮を 要する生徒に対してS S T、 アサーショントレーニング 月1回【共】 「自分を理解し大切にしてく れる友がいる」回答生徒割 合90%以上【共】 「目標を持ち、充実した学校 生活を送っている」回答生徒 割合85%以上【共】 「学校に自分の居場所があ ると感じる」回答生徒割合 80%以上【共】 1分間カウンセリングの実 施（1、2年）【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタル的なサポートも導入できればさ らに良いと思う。 ・今後も充実した情報交換会の実施をして ください。
		「共生・共育を通じて多様な 価値観を受容する大切さが わかったと感じる」回答生徒 割合80%以上【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校と同校舎で過ごしている特 長を生かす取り組みはよい。

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ウ	キャリア 教育の展 開による 生徒個々 の進路実 現	進学か就職かを決めている 割合80%以上(1年)【共】 興味のある学問・職種がある 生徒の割合80%以上(1年) 【共】 進学の場合の校種や内容、就 職の場合の職種を決めている 割合80%以上(2年)【共】 第一志望が確立されている 割合90%以上(3年)【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 1年生で、興味がある学問や職種について8割以上というのは、かなり高いと考える。そこに向けて、具体的にどう努力していくのかを考えさせ、学校での学びをリンクさせたい。
		教職員による個人面談年間 3回以上【共】	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 多忙な中、生徒個人に合わせたキャリア指導をしてくれていると思う。 積極的な面談を望む。 個人面談も大切だが、日頃から教員による声かけや、生徒が相談しやすい環境づくりをしてほしい。 面談という形でなくても、コミュニケーションがとれれば良いと思う。
		日本学生支援機構奨学金の 情報提供100%【共】	A	A	
		企業及び学校訪問後に報告 書を作成し、進路課、各学年 部主任、3年担任との情報共 有【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 教員の負担も考慮し、生徒のニーズに応じた選択的な取組を考えていくと良い。
		検定等資格を活用した大学 の学校推薦型選抜等による 受験者数増加【商】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 教員の負担も考慮し、生徒のニーズに応じた選択的な取組を考えていくと良い。
		職業体験参加者のうち、「職 業体験は将来の生き方を考 える上で有意義だった」回答 生徒割合80%以上【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップが生徒の思いとマッチングされていないケースもあると思っている。 教員の負担も考慮し、生徒のニーズに応じた選択的な取組を考えていくと良い。
		土曜講習や長期休業中の進 学講座の「受講により学力の 伸びを実感したと感じる」回 答生徒割合70%以上【普】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 自主的な学習の時間や習慣づけも必要であり、学校側のサポートも見直してよいと考える。 教員の負担も考慮し、生徒のニーズに応じた選択的な取組を考えていくと良い。 外部の協力が得られると良いと思う。

様式第5号

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
エ	探究的な 学びの展 開 地域・保 護者に愛 され、信 頼される 学校づく り	「総合的な探究の時間の取組で情報収集・分析力が身についた」回答生徒割合80%以上 「総合的な探究の時間の取組で課題発見力、解決力が身についた」回答生徒割合80%以上 「総合的な探究の時間の取組で地域活性化等自分たちの身近な課題解決に貢献したいと考えるようになった」回答生徒割合80%以上【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 校外での活躍も見られて、よい取り組みが進捗していると思う。 地域と関わっての体験的な学びを通して生徒の意欲が高まっている事が、新聞等の報道から推察される。
		県立大学出張講義5回【商】 外郭団体主催事業に参加【商】 伊東市活性化プラン発表【商】 ビジネスプラングランプリに参加【商】 「課題研究」全講座で探究的内容を実施する【商】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 校外での活躍も見られて、よい取り組みが進捗していると思う。 今後も積極的な取り組みを実施して下さい。 市役所で発表したり、外部団体の事業に参加したりするなど、学びの幅を広げる事は素晴らしい。
		HPや公式X、インスタグラム随時更新【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 中学生に対する良いPRになっていると思う。
		中学生1日体験入学に「参加してよかった」回答参加者割合80%以上【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ全員が参加して良かったと答えているのが素晴らしい。具体的に良かった点を次年度につなげたい。
		保護者の緊急メール加入率100%【共】	A	A	
オ	特 別 活 動、部活 動の活 性化	リーダー研修会の実施【共】	A	A	
		「各行事は充実していて、成長を実感できた」回答生徒割合80%以上【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒ファーストでの行事運営サポートをお願いします。 次年度も生徒会活動の充実を希望する。
		「修学旅行は充実していて、成長を実感できた」回答生徒割合80%以上【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は、とても楽しく参加したと話していた。「成長を実感」とはどんな思いだったのだろうか。
		「部活動に積極的に参加し充実感を得ている」回答生徒割合75%以上【共】 「部活動下校午後7時」(原則)の徹底【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 他の指標と比べて数値が低い。 高校生なので、顧問不在の中でもリーダー中心に盛り上げ、工夫していく活動を期待したい。
		1部活動1貢献活動【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 野球部が校外の美化活動を行っているのはよく見た。
カ	「育てたい力」伸長の検証	学びみらいPASSによる測定を行う。(1年)【共】	A	A	

様式第5号

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
キ	教職員の資質・能力の育成と協力体制、情報化、業務改善	校内研修年5回以上実施【共】 授業見学週間年2回設定【共】	A	A	
		「ICTや一人一台端末を日常的に活用している」回答教員割合80%以上【共】 「主体的・対話的で深い学びをめざす授業づくりに日常的に取り組んでいる」回答教員割合95%以上【共】 「一人一台端末の活用が有意義だった」回答1、2年生生徒割合70%以上【共】	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導にもICT機器を活用しているところは大変評価している。 ・1人1人の努力でB評価をA評価になってほしい。 ・年代間のギャップもあるので、活用により成果を上げている授業をピックアップして、共通理解していくのも大切と思う。 ・ICT機器の活用は大切だが、頼りすぎず、各教員の特色が出る授業が大切かと考える。先生方との思い出は授業の中での印象で残ることが多いのではないか。 ・あくまで道具なので、使う事にこだわらず活用していけば良いと思う。
		「信頼できる先生がいる」回答生徒割合80%以上【共】 年次別研修該当者と希望者によるチーム研修年2回実施【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導に関し、生徒の信頼に欠けることもあったと思う。 ・授業力への信頼、生徒指導力による信頼、集団作りによる信頼により、生徒との関係をさらに向上して下さい。 ・信頼できる、できないを判断できるほどの会話がなないのかもしれない。
		コンプライアンス研修を含めた職員研修を月1回以上実施【共】	A	A	
		教職員の夏季休暇完全取得100%【共】 「平均して週1回以上は勤務時間終了後1時間以内に退勤できた」回答教職員割合100%【共】 「平日の完全退勤時刻20時を原則的に守ることができた」回答教職員割合100%【共】	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みを継続してほしい。 ・割合が低くても充実感をもっている教員、割合が高くても多忙感を感じている教員があると思われる。個々の教員がモチベーションを下げぬよう仕事を段取ってほしい。 ・現実的には難しいとは思いますが、休暇・勤務体系も多少余裕や幅があることが望ましい。 ・意識しながら勤務することで、負担が減ればと思う。
		「職員室をはじめ新高校が働きやすい環境になるよう留意した」回答教職員割合90%【共】	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みを継続してほしい。

様式第5号

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ク	安心・安全で快適な教育環境の整備	危機管理マニュアルの浸透【共】 緊急避難経路の確認【共】 定期的な施設設備の安全点検実施【共】 AED講習の実施【共】 校内、学校周辺の危険箇所の確認学期1回【共】	A	A	・家庭の備蓄品や緊急時の連絡先等について、全校体制で確認しておくが良い。
		防災教育連絡会議への参加【共】 地域防災訓練参加率90%以上【共】	C	C	・地域と連携するために、12月前に連絡を取り合うと良い。 ・訓練参加率が低い。抜本的な改善が必要だと思う。 ・コロナ禍以降、地域でもちゃんと訓練を実施しているところが少なくなっている。今後は取組方法を検討したほうがよいだろう。 ・地域のつながりが薄くなっているので、仕方ないのかもしれない。 ・方法・内容を精査し、意味のある参加を検討できるよう、地域に提案していくことも必要か。
		全校防災訓練の実施【共】 消火訓練等、教職員向け実践的防災訓練の実施【共】	A	A	
		一足制である校舎の美化意識を高め、清掃活動を徹底する。【共】 「校舎をきれいに、施設や備品を大事に使うように心がけている」回答生徒割合90%以上【共】 ゴミ分別の推進【共】	A	A	・校舎内の美化が行き届いていると思う。 ・大変良いと思う。 ・校舎内は清潔に保たれているように思う。 トイレ等の気づきにくい所の清掃について、生徒に尋ねるのも大切。
ケ	確実に効果的な学校事務執行	開校2年目で初年度に引き続き煩雑な業務が想定されるが、情報共有により、生徒、教職員の学校への満足度を高める。【共】	A	A	・事務室と職員室、校長の心理的な距離が短く、連携を感じた。 ・次年度も情報共有に努め、よりよい学校になるよう期待している。